

開催報告 三重県青少年赤十字報告会

開催日時 令和5年5月29日(月) 開催場所 三重県勤労者福祉会館

令和5年度より、「三重県青少年赤十字報告会」を開催しています。令和4年度の加盟校406校・園の青少年赤十字活動の取り組み実践を異校種間で交流することで、さらなる青少年赤十字活動の発展につなげたいとの願いを込めて企画しました。

本年度は、5月29日(月)、三重県勤労者福祉会館にて開催。幼稚園・保育園・こども園より1題、小学校より1題、中学校より1題、高等学校・特別支援学校より1題の計4題の実践報告を行っていただきました。活動報告内容の一部をご紹介します。



(活動報告をする紀南高校の込谷先生)



青少年赤十字

第33号

発行 日本赤十字社
発行 三重県支部
令和5年10月

認定こども園 杜の街ゆたか園

公園のトイレをきれいにしよう ～気づき・考え・実行する～

「気づき」
1人の男児の気持ち
「汚れているから使いたくない。トイレに行きたいから、園に帰りたい」
汚れたトイレを使いたくないという気持ちを聞いた子どもの気づき
「公園のトイレ きれいやったら みんなが使えるのに…」

「考え」
「どの公園が一番汚れているかな…」「きれいにすれば プラシがあるね」
「洗剤をつかったら きれいになる」 色々な意見を出しながら考え、
公園のトイレ掃除に行くことを決めた!

「実行する」
実際にトイレ掃除に出かけた。
「きれいになったから、もう使えるね!」
「汚さないようにしないと!」など、きれいになったことを喜ぶ姿が見られた。

園児(5歳)たちが、散歩に出かける公園の「トイレが汚いから使いたくない」という1人の思いをきっかけにみんなで考えていく中で、「遊びに行く公園のトイレをきれいにしよう!」と意見が一致した。掃除をするのに、必要なものやどうすればきれいになるのかを考え、トイレ掃除を実行して、いつも気持ちよく使えるトイレに生まれ変わりました。

四日市市立橋北中学校 ウクライナ人アンナさんとの国際交流



英語の授業でゲストティーチャーとしてウクライナ人のアンナさんを招き、ウクライナの文化や歴史について学びました。子どもたちは学んだ内容をもとに「ウクライナの平和」をテーマに絵を描いたり、ウクライナ支援のためのチャリティイベントにボランティアとして参加しました。

津市立村主小学校

会社をつくろう ～ミャンマーの難民の子どもたちを支援しよう～

売れる商品を作るために、何度も何度も直して作り上げました。

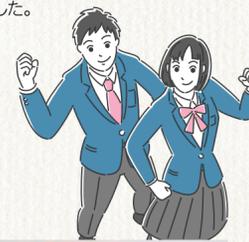
NPO法人AEFAのお話を通して、ミャンマー出身の少数民族の難民の子どもたちが通う学校がマレーシアにあることを知り、生活をするだけで精一杯の子どもたちが少しでも学校で勉強できるよう支援したいと考えた児童たちが、「会社をつくろう」の取り組みをはじめました。子どもたちは、支援金を得るために商品を作ったり、サツマイモ栽培をしたりして販売活動を行いました。

三重県立紀南高等学校 震災で悲しみを抱える人をつくらない街づくり 「防災きんぱんプロジェクト」

「非常持出袋」の販売

2日間で、75個を売り上げる。(375,000円)

JRC部と生徒有志が、「防災きんぱんプロジェクト」への参加をきっかけに、高校がある地域に遠くからでも、どのような人にもわかりやすい、津波避難場所への案内板を設置する取り組みを行うことになりました。案内板を設置するための費用を賄うため、地元企業と協力して非常用持出袋「防災避にゃんセット～一緒ににゃんしよう!～」を作り販売を行いました。



令和5年度 青少年赤十字 リーダーシップ・トレーニング・センター

研修「フィールド・ワーク」

①救急法 ②車イス体験 ③暗黒ゾーン ④無言ゾーン ⑤RC・JRCクイズという5つの関所を体験。3日間の研修内容を確認しました。

チームメンバーと力を合わせて課題に取り組みました



三角巾や救急処置など、いざというときのための貴重な体験になりました

高校生

令和5年7月29日(土)～31日(月)

研修「救急法」

初めて三角巾を扱った生徒たち。身体のさまざまな箇所に処置を行える三角巾の効果的な役割を学ぶことができました。



挑戦し、学びを得られた3日間

29名の生徒たちが参加した高校生トレセン。研修や実習だけでなく食事や生活・健康、レクリエーション、庶務のVS各グループの活動にも積極的に取り組み、「自分たちで考えて行動する」という青少年赤十字トレセンの生活スタイルの実践に取り組んだ3日間となりました。

3日目のフィールドワークには車イスや目標としての歩行といった演習メニューもあり、実際の体験を通じて災害弱者に寄り添う大切さを知る機会にも。仲間と協力して問題を解決する力を実感しながら、リーダーとして果たす役割への認識を深めることができました。



防災教育

炊飯袋「ハイゼックス」を利用してお米を炊き、避難所生活での非常食の作り方を実践しました。



参加者の声

「最初は緊張と不安でなかなか話が前に進められなかったけれど、話しかけたり、感謝を伝えるといった“声かけ”をすることで、個人個人の間にあった壁を少しずつ取り払うことができました」

「“集団で生活する”ことから一歩先に進んで、“自分たちで考えて行動する”という生活スタイルが初めての経験で新鮮でした。自分の役割に責任を持ってみんなのために行動することがどれほど効率よくて良いものができるかを実感し、集団に対する自分の関わり方を学べました」

「前に出る人だけがリーダーじゃない、一人ひとり得意なものが違い、一人ひとりがリーダーの役割を果たすことができる(シェアリーダーシップ)を実感しました」

参加校 白子高校・飯野高校・伊勢高校
木本高校・久居農林高校・紀南高校

VS(ボランティア・サービス)

周囲のさまざまな問題に気づき、自らのために役立つ具体的な行動を取る力を育てます。



閉会式



このトレセンがなければ出会うはずのなかった参加者たち。新たな絆が生まれる3日間になりました。

新リーダーの引き継ぎも行われました。

研修「良いリーダーとは」

リーダーへの見方が変わり、一人ひとりがリーダーとしての役割を果たすことの大切さを知る機会に。



加盟数

保育園	9
幼稚園	50
こども園	10
小学校	237
義務教育学校	1
高等学校	7
特別支援学校	2
合計	401

令和5年度 加盟校・園
令和5年度 加盟登録をさせていただいた学校・園は、401校・園です。加盟いただきありがとうございます。本年度の小・中学校の加盟率は、それぞれ70%・57%となりました。本年度は、昨年度より加盟校が減少しました。その大きな理由は、各地域の統廃合と園児数の減少です。今後は、園児数の少ない幼稚園でも加盟できるように検討していきたいと思っております。

青少年赤十字は、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」を実践目標に、「気づき・考え・実行する」を態度目標として学校教育の現場で活動していただいております。また、出前授業も行っています。本年度は、「国際人運法」と赤十字の7つの原則の講座も新たに開設いたしましたので、出前授業派遣希望があればご連絡ください。本年度より、三重県青少年赤十字活動報告会を開催しています。各学校・園の取り組みをまとめた「活動紹介書」(1月31日提出)の中から実践事例を抽出し、発表していただいております。本年度の取り組み実践を、来年度の活動報告会に発表していただく予定です。選ばれた学校・園は、どうぞよろしくお願いたします。

編集後記

第33号は、三重県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター(トレセン)の記事を中心にまとめた形です。トレセンは、「コロナ対応により涙を伴わない形で取り組んでまいりましたが、本年度、4年ぶりに2泊3日で実施いたしました。高校生29名、中学生22名、小学生10名の参加となりました。参加いただいた学校様のご協力により感謝申し上げます。

トレセンに参加された児童・生徒のみならず、幅広い成長期を見つめるその意義の深さを実感いたします。しかしながら、現在は「コロナ以前とは、学校を取り巻く状況が著しく変化しています。青少年赤十字100年の歴史の中でトレセンは特設的な取り組みとして大切に取られてきましたが、教員の働き方や教育内容の進化等を考慮し、今後の在り方を検討する時期にきていると感じています。先生方が安心してトレセンに取り組んでいただけるよう、三重県支部として、教育委員会様とも連携を密にしながら在り方を模索してまいります。

令和5年度 三重県青少年赤十字 指導者協議会 役員紹介

役職名	名前	所属所名
会長	野口和規	津市立西橋内中学校
副会長	武久隆弘	伊勢市立明倫小学校
副会長	湯浅秀紀	松阪市立久保中学校
副会長	辻 孝明	三重県立紀南高等学校
理事	森本敏子	杜の街ゆたか園
理事	前川佳子	津市立のむら幼稚園
理事	敷地哲也	津市立善達中学校
理事	東浦 徹	津市立橋北中学校
理事	小川晃範	鈴鹿市立長太小学校
理事	伊達智博	松阪市立徳和小学校
理事	相賀 智	尾鷲市立尾鷲中学校
理事	村瀬卓也	津市立豊里中学校
理事	丸山 藍	三重県立本木高等学校
理事	込谷 徳隆	三重県立紀南高等学校
理事	早田 清宏	三重県立小中学校教育課長
理事	山北 正也	県教委 高校教育課長
理事	天野 長志	県教委 社会教育・文化財課 課長
理事	山中 浩人	多気町立佐奈小学校
理事	古市 卓司	津市立白山中学校
理事	森 昌彦	教育代表 津市教育長
顧問	庄山 昭子	三重県青少年赤十字 賛助奉仕団委員長
顧問	東谷 和久	三重県青少年赤十字 賛助奉仕団委員長
顧問	高間 伸夫	日本赤十字社 三重県支部事務局長

JRC態度目標

気づき 考え 実行する

22名の生徒たちが2泊3日の研修に参加。非常食や救急法を実習で学んだり、「良いリーダー」の条件について意見を交わしたり、研修での体験をフィールドワークで確認したりと、密度の濃い3日間を過ごしました。

「良いリーダー」についての研修を経てリーダーのあるべき姿に考えを新たにしたいという生徒も多く、良いリーダーとは、「一人ひとりの意見を尊重し、まとめられる人」、「チャレンジして失敗を重ねても諦めずに頑張っている人」と学んだようです。

グループのリーダーを決める際など「勇気を出して一歩を踏み出してみました」という生徒も多く、研修で得たものをさっそく自らの体験に生かそうとする姿を嬉しく感じました。

令和5年度 青少年赤十字 リーダーシップ・トレーニング・センター

三重県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター（トレセン）を津市青少年野外活動センターにて4年ぶりに2泊3日で開催しました。参加してくれた児童・生徒たちの熱心な活動の様子をご紹介します。

中学生

令和5年7月31日(月)～8月2日(水)

スタンツ

研修で学んだ内容を劇形式で発表。各HRのメンバーたちがそれぞれに工夫を凝らして、練習の成果を見事に披露してくれました。



HR(スタンツ準備)

各HR分かれてスタンツで発表する劇を練習。綿密に台本を作成したり、何度もリハーサルを重ねたりするなど、熱心に準備を重ねて本番に臨みました。



一歩を踏み出す大切さを学んだ3日間



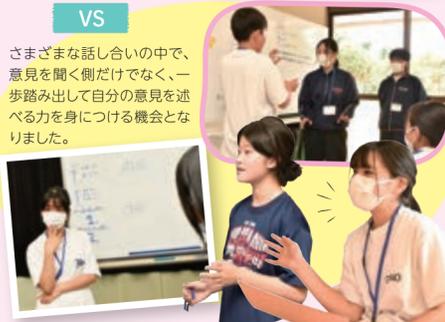
非常食実習

避難所生活の際に非常食となる「ハイゼックス」。日頃の準備が災害時に生かされることとなります。



VS

さまざまな話し合いの中で、意見を聞くだけでなく、一歩踏み出して自分の意見を述べる力をつける機会となりました。



研修「良いリーダーとは」

参加者一人ひとりがリーダーのあり方について考えました。グループのメンバー各自の力を引き出すことの大切さに気づいたという声も。



研修「フィールド・ワーク」

研修で学んだ知識・技術を野外活動で発揮。グループごとに行動する中で、メンバー同士が声をかけあって助け合う場面も見られました。



参加者の声

「今まで私の中で良いリーダーは、“何でも自分1人で解決できて何をしてもうまくいく完璧な人だ”と思っていました。でも、そうではなくて、いっぱい挑戦して、失敗してもいい、一歩踏み出すことが大切なんだとわかりました」

「初めて顔を合わせる人が多く不安でしたが、自分から積極的に声をかけるとすぐに仲良くなれると気づきました」

「自分にはネガティブな面があって悩んでいましたが、トレセンで大勢の仲間と出会う中でポジティブな言葉を発している子の姿を見て、憧れるとともに、学校に戻ってからこの経験を生かしていきたいと思いました」

「劇の練習ではメンバーの間でアイデアがいっぱい出て、練習を重ねる内にどんどん改善できて良い内容にできました」

参加校 久居東中学校・南郊中学校・一身田中学校
西橋内中学校・芸濃中学校・橋北中学校

村長選

リーダー役の「村長」を決める村長選には多くの生徒たちが立候補。参加者を前にして自らの抱負を堂々と訴えました。



小学生

令和5年8月2日(水)～4日(金)

JRC実践目標

健康・安全 奉仕 国際理解・親善

スタンツ

各HRごとに出し物話し合い、練習を重ねた成果を発表。緊張の中にも充実感を感じられる時間に。



研修「フィールド・ワーク」

トレセン最終日のフィールドワークは3日間の研修で学んだ内容を実際に外に出て披露する場に。みんな新鮮な体験が得られました。



みんなで力を合わせて協力することの大切さを学ぶことができました

いつもと違う自分を発見できた3日間

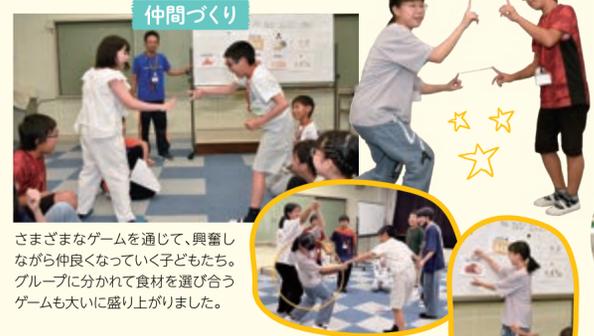


研修「救急法」

初めて見る三角巾を使った怪我の手当てや救急処置に興味津々。積極的に取り組みました。



仲間づくり



さまざまなゲームを通じて、興奮しながら仲良くなっていく子どもたち。グループに分かれて食材を選び合うゲームも大いに盛り上がりました。

HR・VS

レクや食事、健康、生活庶務などのVSIに分かれて、3日間の生活や活動内容を子どもたちが自分自身で考えていくのがトレセンの特徴です。



非常食実習

炊飯袋「ハイゼックス」を利用してお米を炊き、避難所生活での非常食の作り方を実践しました。



研修「RC・JRC」

赤十字の歴史や活動の意義、青少年赤十字について理解を深める時間。積極的に質問に手を挙げる姿が見られました。



村長選

勇気を出して村長に立候補。この経験が自分を一歩成長させてくれます



参加者の声

「初めて出会った仲間と仲良くなれてよかった。仲間と協力すればどんな活動も楽しくなります。責任やプレッシャーを背負うのが苦手でも、今までリーダーの仕事から逃げていたけど、チームでの活動はみんながリーダーでメンバーでした」

「学校では次の予定でも何でも先生が教えてくれるって思っていたけれど、トレセンで自分のことは自分でする、人に聞くにまず自分で調べることができました」

「人見知りなので最初はついていけるか心配だったけれど、みんなが話しかけてくれてなじめることができました。最後の日にはこれでお別れだと思うと、絶対にまたみんなに会いたいなと思いました」

参加校 白塚小学校・豊が丘小学校・桃園小学校・南立誠小学校・一身田小学校